

## 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b>	しこくおうだんじどうしやどうあいなんおおすせんうわじまきた せいようわ 四国横断自動車道愛南大洲線宇和島北～西予宇和	事業区分：高速自動車 国道(新直轄)	事業主体：国土交通省 四国地方整備局																												
<b>起終点</b>	自：愛媛県宇和島市高串 至：愛媛県西予市宇和町稲生		延長：16.3km																												
<b>事業概要</b>	<p>四国横断自動車道は、阿南市を起点として高松市、高知市を經由し、大洲市に至る延長約441kmの路線。四国四県の広域的なネットワークはもとより四国縦貫自動車道、さらには本州四国連絡道路と相まって本州との結びつきを深め、「四国8の字ネットワーク」として、四国における産業、経済、文化の発展に重要な役割を果たすとともに、高規格幹線道路ネットワークの機能強化、及び今後想定される「東南海・南海地震」などによる災害時の代替路としての役割を担う重要な路線である。</p>																														
H10年度事業化 (新直轄方式指定H15年度)	H8年度都市計画決定	H13年度用地着手	H15年度工事着手																												
<b>全体事業費</b>	約644億円	<b>事業進捗率</b>	51%																												
<b>計画交通量</b>	9,000台/日	<b>供用済延長</b>	0.0km																												
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B/C</td> <td style="text-align: center;">(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">1. 2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)</td> <td style="text-align: center;">2. 8</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	(事業全体)	1. 2	(残事業)	2. 8		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">268/654億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業費)</td> <td style="text-align: center;">236/623億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(維持管理費)</td> <td style="text-align: center;">31/31億円</td> <td></td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体)	268/654億円	(事業費)	236/623億円		(維持管理費)	31/31億円		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">756/756億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益)</td> <td style="text-align: center;">625/625億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行経費減少便益)</td> <td style="text-align: center;">89/89億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(交通事故減少便益)</td> <td style="text-align: center;">42/42億円</td> <td></td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/(事業全体)	756/756億円	(走行時間短縮便益)	625/625億円		(走行経費減少便益)	89/89億円		(交通事故減少便益)	42/42億円		<b>基準年</b> 平成20年度
B/C	(事業全体)	1. 2																													
(残事業)	2. 8																														
総費用	(残事業)/(事業全体)	268/654億円																													
(事業費)	236/623億円																														
(維持管理費)	31/31億円																														
総便益	(残事業)/(事業全体)	756/756億円																													
(走行時間短縮便益)	625/625億円																														
(走行経費減少便益)	89/89億円																														
(交通事故減少便益)	42/42億円																														
<b>感度分析の結果</b>	残事業について感度分析を実施 交通量変動： B/C=3. 1(交通量+10%) B/C=2. 5(交通量-10%) 事業費変動： B/C=2. 6(事業費+10%) B/C=3. 1(事業費-10%) 事業期間変動： B/C=2. 7(事業期間+1年) B/C=2. 9(事業期間-1年)																														
<b>事業の効果等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心できるくらしの確保（南予救命救急センターへのアクセス向上に伴い救命率が向上）</li> <li>・物流効率化の支援（特産品である真鯛等の農林水産品の流通利便性が向上）</li> <li>・災害への備え（緊急輸送道路の通行止め時の代替路線を形成）</li> </ul> <div style="text-align: right;">他13項目に該当</div>																														
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>	四国横断自動車道は、愛媛県南予地方への高速道路ネットワークの延伸が期待されており、愛媛県をはじめ、宇和島市、愛南町等の周辺自治体から積極的な整備促進要望が続けられている。																														
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b>	H11年5月本州四国連絡道路（尾道今治ルート）開通 H12年7月～H16年3月四国横断自動車道（伊予～西予宇和間）供用 H16年4月に市町村合併（東宇和郡宇和町、野村町、城川町、明浜町、西宇和郡三瓶町）により西予市が発足。 H17年8月に市町村合併（宇和島市、北宇和郡津島町、吉田町、三間町）により新宇和島市が発足。																														
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b>	平成19年度末で用地取得率99%となっており、平成23年度に全線16.3kmの暫定2車線供用を目指し、用地買収・工事を推進している。																														
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b>	用地買収、工事の推進を図り、平成23年度に暫定2車線供用を図る予定である。																														
<b>施設の構造や工法の変更等</b>	トンネルに片勾配断面を導入（円形水路→ガッター構造に変更）によりコスト縮減を図っている。																														
<b>対応方針</b>	事業継続																														
<b>対応方針決定の理由</b>	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。																														
<b>事業概要図</b>	<div style="text-align: center;"> </div>																														

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。